令和2年度　学校自己評価システムシート　（ 県立和光南特別支援学校 ）　　(w46)

目指す学校像	児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校

重 点 目 標	1 充実した授業づくり 2 開かれた学校づくり 3 健康で安全な学校づくり 4 進路指導の充実

達成度	A	ほぼ達成　(8割以上)
	B	概ね達成　(6割以上)
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不 十 分　(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生　　徒	名
	事務局(教職員)	名

学　校　自　己　評　価								学 校 関 係 者 評 価
年　度　目　標					年　度　評　価（ 月 日現在）			実施日　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・多様な教育課程の編成に向けて、12 年間の系統性を重視した教育目標の見直しに取り組んだ。新学習指導要領の理解促進を進めるよう指摘もあり、今後も、主体的で対話的で深い学びの視点を取り入れた授業展開を進める。 ・児童生徒個々の障害特性に応じた適切な指導が図られるよう、研修等を通じて、資質向上に取り組んでいる。今後も、外部講師による研修や、校外における研修に取り組む。	①新学習指導要領の下、支援や指導の共通理解や児童生徒の障害特性の実態把握を進め、学校研究、「主体的・対話的で深い学びの視点で考える」を取り入れた授業実践を行う。	①【管理職、研究部等】 新学指導要領の下、適切な支援計画（和光南スタンダード等）による授業実践と児童生徒の実態把握により教科・作業・発表学習等を進める。授業（行事）のねらいを明確にして、校内研究を計画的に行い、成果を確認する。	①「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業の中でPDCAサイクルを実践し、指導のねらいや評価が適切に行われたか。				
		②校内外における新学習指導要領に関する研修に取り組む。	②【教育課程部等】 研修会を実施し、新学習指導要領の理解を深め、全教職員で組織的かつ計画的に教育活動の質向上を図る。	②新学習指導要領に関する理解を深める研修会が実施できたか。また、教科や行事等の教育課程の整備につなげることができたか。				
2	・本校教育活動への理解は進んでいるが、一層の理解を得るため、地域や外部関係機関への広報や連携を進める。今後も外部機関との連携を深め、「切れ目のない支援・多様な教育の場」を実現する。 ・学年や学部にとどまらず、ケース会議等を通じて、学校全体で児童生徒個々の情報共有を図り、きめ細やかに、児童生徒の実態を把握する取り組みを続ける。	①外部機関や外部講師と連携し、ボランティア研修や専門研修を実施する。また、学校HPや学校だより等を活用して、本校の教育活動を広報し、理解促進を図る。	①【管理職、地域校内支援部、就学相談部、教務部、情報部等】 学区市教育委員会、小中特別支援学級や通級高校等との連携を密にする。外部人材（ボランティア）や体験活動の受け入れ等を通して、本校の教育活動を積極的に広報する。HP等を活用して学校案内・教育活動を計画的に情報発信する。	①外部への説明会や体験活動の受け入れを通して、本校の教育活動の理解度等のアンケート等は実施できたか。 ②HP等を活用して、教育活動等の情報発信ができたか。				
		②障害特性から行動に課題のある児童生徒や長期欠席児童・生徒等の、把握・報告・対応を組織的に実施する。	②【生徒指導部・地域校内支援部等】 障害特性から行動に課題のある児童生徒等や長期欠席児童生徒に対して、校内連携と地域連携を含めた支援について、適宜ケース会議等行う。	②特に課題のある児童生徒に対して、ケース会議等は適宜に実施され、対応できたか。				
3	・健康被害や事故防止はもとより、細やかな配慮も怠らず、安心安全な学校生活が送ることができるよう、安全意識の徹底を図る。 ・教職員自身が働き方改革を実践し、負担軽減が図れたことを実感することが大切である。県の取り組みも含め、校内における負担軽減策の実践を進め、業務の効率化を図る。	①安心安全な学校生活のため、事故を未然に防止する安全意識の徹底やヒヤリハットを共有する。緊急時に家庭や地域との連絡を確実に行う情報通信機能の整備を図る。災害時における安全確保のための訓練等を実施する。	①【管理職、企画委、教務部、保健部、スクールバス部、生徒指導部、情報部、防災部、渉外部等】 ・全教職員でヒヤリハット案件を共有し、学校全体で組織的に事故の未然防止策や解決策を共有する。 ・刻々と変化する国や県の状況に組織的に対応して情報通信機器の一斉メールやHP等で家庭や地域との連絡を確実に行う。	①ヒヤリハット案件について、組織的に事故の未然防止策や解決策は実施できたか。 緊急事態等の対応に一斉メールやHP等で家庭との連絡を確実に行えたか。（メール登録率は、100％に近づけたか）				
		②教職員の働き方改革の意識は向上しているが、さらに職場環境の改善を行い、事務効率化を進めて教職員自身の健康の保持増進を図る。	②【管理職、倫理確立委、学校安全衛生委等】 長時間勤務・残業等を把握して、働き方の改善を促すなどの見直しを行う。教職員自身の健康増進のための意識改革を進め、仕事の効率化を工夫する。	②長時間勤務・残業が減り（仕事の効率化）、教職員自身の健康は改善できたか。 教職員自身で、勤務管理システムを活用しセルフコントロールして、適正な勤務ができたか。				
4	・キャリア教育の共通理解を図るため、すべての教員に対して進路指導研修会を実施した。保護者向けの勉強会及び講習会も開催することができた。 ・卒業後の自立と社会参加を目標に、校内体制の整備を進め、引き続き、企業及び福祉事業所の新規開拓を進める。また、進路連絡協議会を開催するなど、外部機関と連携して指導ができる取り組みを進める。	①発達段階に応じたキャリア教育を進め、保護者支援を通して、児童生徒の自立と社会参加できる力を育成する。	①【管理職、進路指導部等】 「進路の手引き」を活用し、各市関係課、ハローワーク、商工会等の外部関係機関と連携し関係強化を行い、自立と社会参加を目指す人材の育成を実践し、就労企業や実習現場の数を増やす。	①「進路の手引き」を活用し、本校の進路指導の進め方は理解されたか。生徒保護者の希望する進路実現はできたか。				
		②望ましい職業観や勤労観を指導し、社会の一員としての就労機会を増やすため、生徒の実習機会を増やし、校内研修や外部関係機関と連携する。	②進路指導の在り方を長期スパンで分かりやすく説明する。高等部では、生徒の実習の機会を多く設定し、生徒の自立と社会参加できる力を育成する。	②保護者に進路指導の内容は理解され、情報提供は適宜できたか。				